

# シヨクカイ相場情報2023.11

## 国内野菜

### 全般

#### 【根菜類】

##### ○大根

台風被害はないものの、生育期の高気温による障害が発生し、種の撒き直しが行われています。11月分の流通量としては多くありませんが、10月までの品薄感は解消できる見込みです。撒き直し分が順調に育てば価格は落ち着く見込みです。

##### ○人参

現在昨年と比較して3割程度高値で流通しています。11月中旬頃には関東産が出回り相場が下がってくる見込みですが、高気温の影響がどこまで出るのか注視が必要です。

##### ○玉ねぎ

北海道産は高気温により中晩生種の作柄が悪かった為、出荷量はやや少なめとなっております。例年、他の野菜の流通量が増えるに伴い玉ねぎの相場は落ち着く見込みですが、今年は未だ読み切れない状況です。

#### 【葉菜類】

##### ○白菜

予想入荷量は少なかった前年を若干上回り、平年並み〜微減で推移しています。白菜も高気温の影響を受け、減産気味です。

##### ○キャベツ

千葉県産・茨城県産は高気温により定植や生育遅れがあり、10月は数が少なめですが、11月に入ると出荷ピークに入る見込みです。愛知県産や神奈川県産も数量が増え、価格は下がると思われます。

##### ○ほうれん草

9月下旬の播種分は作柄が良く、10月下旬から順調な出回りが見込まれます。予想流通量は前年・平年を上回る見込みで、価格は落ち着いています。

#### 【果菜類】

##### ○胡瓜

宮崎県産・高知県産の生育は概ね順調です。関東産は一部で高温の影響が残り、数量は若干少ないです。11月中旬以降は西南暖地産が中心となり数量は潤沢となり、相場は弱含みの気配です。

##### ○茄子

暖冬予報もあり、安定的な出回りが見込まれ、相場展開も大きな山谷はない見込みです。価格も落ち着いています。

## 輸入野菜

### 薬物

生育は順調です。10月中下旬から収穫・加工する予定です。価格は現状は落ち着いています。

### 茄子

新物原料の加工中です。昨年高騰した油の価格が下がり安定していることを要因として、製品価格は平年並みで推移しています。

### レンコン

作付面積は平年並みです。一部産地は天候不良による減産・原料の小型化が発生しているものの、作柄は概ね良好に推移しています。10月中下旬から本格的な生産を始める予定です。価格は現状は落ち着いています。

### サトモ

新物原料の加工中です。初期原料の数量が少ないため、価格は不安定になっています。昨年の減産により種芋の供給が難しくなり、栽培面積は減少傾向です。更に、里芋の下処理をすることができる熟練作業員が年々減っており、生産量にも影響が出ています。価格は依然として高値で推移しており、今後も注意が必要です。

### かぼちゃ

新物原料の加工中です。一部の産地では雨による被害を受けたものの、作柄は概ね良好な状態で推移しています。価格は平年並みで推移しています。

## 畜肉

### 鶏肉

輸入鶏肉は、先日ブラジルで新たに鳥インフルエンザが発生した影響で、9月19日付けで当該州からの輸入禁止措置がとられましたが、日本向け輸出シェアは7%程と少なく供給不安や相場への影響等は軽微との見方です。ただし今後も鳥インフルエンザが発生する懸念はある為、注視する必要があります。ブラジル産の影響で高騰していたタイ産も軟化傾向にあります。今後、気温低下に伴って荷動きが活性化することに期待がかかりますが、今年は野菜価格も高値で推移しており、鍋需要がどこまで盛り上がるか懸念もあるようです。また、11月はブラジル産の輸入量が減少することから相場は締まった展開となっており、価格動向に注視が必要です。

### 豚肉

#### 【チルド】

国産豚肉相場が軟化傾向で、値差は縮まるものの引き続き一定の需要が見込まれ上げ基調です。現地高と円安による輸入価格の上昇が影響し、市中浮遊玉は少ないです。後は気温の低下に伴い、ロインやピクニック・ペリー等の動きが活発化すると予想されます。国産豚相場の急激な軟化を不安視する向きもあるものの、量販店の売り場に欠かせず需要は底堅く、むしろ輸入量の減少による品薄感に注意が必要となります。

#### 【フローズン】

チルドポークの引合いが強まることでチルド用ロイン等の手当て苦戦及び相場上昇が予想されます。現地高かつ市中在庫も少ない肩ロース系の値上げも必至で、鍋需要に向けた在庫確保に注意が必要です。各部位が価格高騰する中シートペリーに関しては市中在庫も多く、相場は横ばいで比較的販売しやすい環境が続きます。

### 牛肉

#### 【豪州産】

米国の生産量減少により豪州への引合いが強まり、価格が上昇しています。

#### 【米国産】

ショートプレートは高値で荷動きが低調なものの、現地価格の上昇により入荷量は減少し、国内相場は上昇しています。一部では在庫調整目的の安値販売も見受けられましたが今後は下がる要素は見当たらず、需要と相場に乖離が発生する可能性があります。チルド・フローズンとも米国産の高値が豪州産の現地価格を引き上げており、両国産とも輸入量の減少が続く懸念があります。

## 魚介

### 鮭鱈

#### 【鮭・鱈】

鮭原料は、高値水準の価格帯で推移していますが、現在行われている新物漁獲量により、今後の製品価格に反映される状況です。鱈原料は、今期新物の供給量増加を要因として、製品価格の値下がりが続いています。

#### 【チリ銀鮭・トラウト】

チリ銀鮭原料は、高値水準が続いていましたが、値下がり推移となっており、今後、製品価格の値下げが予想される状況となっています。サーモントラウト原料も、同様に値下がりとなっています。

### サバ

ルウエー産・アイスランド産等の欧州サバについては、現在漁獲中の新物原料が昨年と比較して買付価格が値上がりしています。現在は、製品価格は現行同水準の価格で推移しています。来年度は製品価格の値上がり予想となっていますが、値上げ幅に関しては若干の値上げ程度で留まる見込みです。国産、中国産サバに関しては、現在行われている新物の漁獲量により、今後製品価格に反映される状況です。

### タラ

### カレイ

助宗タラ原料価格は、安値から値上がり傾向で推移しています。また為替変動(円安)の影響もあり、今後若干ですが、製品価格の値上がりが見込まれます。白身カレイ(アブラカレイ)は供給量の減少が続いている事と、同様に為替変動(円安)の影響もあり、原料価格が値上がりしています。製品価格の値上がりも継続している状況となっています。

### エビ

養殖バナメイエビ原料は、主要産地のベトナム産・インドネシア産・インド産等で為替変動(円安)を主要因として値上がり傾向の推移となっています。今後、エビ加工製品の値上がりが見込まれます。

※2023年10月末日現在の予測に基づいて作成しております。